

城南家保ニュース Vol.30-1

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



平成30年度のメンバー紹介です！

○4月の定期人事異動により、荒牧所長（阿蘇家保所長）、廣嶋衛生課長（城北家保衛生課長）、齋藤主幹（畜産研究所 生産基礎技術研究室長）の3名が転出しました（カッコ内は新所属）。

○今年度は、**新たに3名の職員**（旧所属）を迎え、以下の体制となりました

所 長：塚原敬典（中央家保）

衛 生 課：課長 山下利治、**矢野光太郎**（城北家保）、浦田、福田、橋口

防 疫 課：課長 村上美雪、加地、**田中貴大**（新採）

臨時職員：穴見 城南地区自衛防疫促進協議会事務局：東

塚原所長は4年ぶり3回目、矢野主任技師は初めての城南家保赴任になります。新人研修中の**新規採用「田中貴大（たかひろ）」**技師も研修終了後の4月中旬より赴任する予定です。衛生課長の山下、防疫課長の村上は内部異動で昇格となりました。昨年より幾分若返り、新たなメンバーも加わりフレッシュな気持ちで業務を推進してまいりますので、今年度もよろしくお祈りします！

韓国において口蹄疫が発生しました

平成30年3月26日に、韓国京畿道の豚農場において口蹄疫の発生が認められました。韓国での発生は13ヶ月ぶり、4月2日までに1件の豚農場で続発が確認されています。豚の口蹄疫ウイルス排出量は牛などの反芻動物より多く、口蹄疫のさらなる拡大を招くおそれがあります。

これからゴールデンウィークを迎えるにあたり、日本から海外への渡航者が増えることから、我が国へ口蹄疫ウイルスが侵入する可能性は非常に高いと思われます。畜産関係者の皆様におかれましては、引き続き飼養衛生管理基準を遵守し、口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控えるなど、口蹄疫の農場への侵入及び発生予防に万全を期してくださるようお願いいたします。

過去の日本での発生をみると
まず韓国で発生しています！



2000年 → 2000年

2002年

2010年 } → 2010年
2011年 }

2014年 } → 
現在

侵入する可能性
は非常に高い!!

球磨地域振興局で防災意識向上研修が開催されました

平成30年3月8日に球磨地域振興局において、振興局及び出先機関の職員を対象に、有浦 隆 熊本県危機管理防災企画官を講師に、防災意識向上研修が開催されました。

家保からも全職員が受講し、研修会では熊本地震や高病原性鳥インフルエンザ、風水害・土砂災害といった、災害について、「防災とは何か」、「どのように準備・対応すれば良いのか」等について、これまでの熊本県での災害発生の教訓・対応を交えて講義があり、

特に「防災は全職員で対応すべきもの」、「防災の失敗は人（家畜）の命に関わる」、「その失敗は無関心から始まる」という教訓が印象的でした。鳥インフルエンザや口蹄疫についても“防災の3段階”の原則＝①発生を未然に防止、②発生した場合に被害の拡大を防ぎ、③復旧（終息）を図る、があてはまります。疾病や個々の農場、地域的な特性を知り、無関心・他人事にせず予防・初動対策を通常業務の中で常に考えていきたいと思えます。

☆ 防災とは・・・。

かたく言うと・・・

災害を未然に防止し、

防災の3段階：
予防・応急対応・復旧

災害が発生した場合に被害の拡大を防ぎ、

災害の復旧を図ること。

(災害対策基本法第2条)



近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地(国)	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ	H5N2	台湾(14件)	肉用・採卵用あひる、七面鳥、地鳥	平成30年2月22日 ～3月12日
	H5N6	韓国(4件)	採卵鶏、肉用あひる	平成30年3月13日 ～3月16日
		中国(1件)	あひる	平成30年2月22日
	H7N9	中国(1件)	採卵鶏	平成30年2月7日
口蹄疫	A型	韓国(1件)	豚	平成30年3月26日
		中国(1件)	羊	平成30年2月24日
	O型	ロシア(1件)	牛・山羊・羊・豚	平成30年2月10日
		モンゴル(14件)	牛・山羊・羊	平成30年1月9日 ～3月6日

平成30年4月1日時点

編集後記 (M.K)

冬の寒さが厳しかった反動か桜も早く咲き、暖かくうらかな4月を迎え、新たなスタッフ陣での船出です。先日コラムで読んだサッカーの強豪県立大津高校のモットーは「凡事徹底」。毎日の挨拶・所作振る舞いからきちんと、時間は有限だがその使い方は無限などなど、社会人としてさらに成長・進歩するため、とても参考になりました。